

## 平成27年度第1回林業研究所試験研究評価委員会評価結果

試験研究評価委員会における評価委員（学識経験者2名、林業経営者1名、建築設計士1名）の評価結果の概要は以下のとおりです。

### 中間評価対象課題（4課題）

#### ●搬出間伐における最適な集材機械の選択に関する研究

評価平均点 15.00点

##### 【評価項目】

進捗状況： ほぼ予定どおり(3)、予定どおりに進んでいない(1)

得られた成果： ある程度得られた(3)、あまり得られていない(1)

目的達成の可能性： 高い(4)

課題の取り扱い： 取り組みを強める(4)

##### 【主な意見】

- ・地域性、ユニーク性などを意識して研究を発展させてほしい。
- ・路網を開設した場合との比較も含めて検討してほしい。
- ・三重県独自のポイント（地形、林業事情など）を強調するとより研究の価値がわかりやすくなる。

#### ●県産材を活用した耐久型フローリングの開発

評価平均点 14.00点

##### 【評価項目】

進捗状況： ほぼ予定どおり(4)

得られた成果： ある程度得られた(1)、あまり得られていない(3)

目的達成の可能性： 高い(3)、低い(1)

課題の取り扱い： 取り組みを強める(4)

##### 【主な意見】

- ・色や表面硬さの測定法、適切な含水率と繊維飽和点、スプリング・バックの問題などを考慮して研究成果の高度化を図るべき。
- ・具体的な用途と実験方法の選定をわかりやすくリンクさせるべき。
- ・店舗に求められる性能はどのようなものかリサーチが必要。
- ・実験設定の再考が必要。議論で挙げた点だけでなく、温度や水分、供試体数などの設定理由の開示が必要。

#### ●新植地におけるニホンジカの効率的な捕獲技術の開発

評価平均点 16.00点

##### 【評価項目】

進捗状況： ほぼ予定どおり(4)

得られた成果： ある程度得られた(4)

目的達成の可能性： 高い(3)、低い(1)

課題の取り扱い： 飛躍的に取り組みを強める(2)、取り組みを強める(2)

【主な意見】

- ・地域による誘引効果の違いはあるのか。
- ・餌を利用した技術向上に期待する。
- ・短期間で成果を得るのは難しい課題ではあるが、非常に重要な課題であるので、今後の展開に期待する。

●伐採跡地における広葉樹の育成技術の開発

評価平均点 16.00 点

【評価項目】

進捗状況： ほぼ予定どおり(4)

得られた成果： ある程度得られた(4)

目的達成の可能性： 高い(4)

課題の取り扱い： 取り組みを強める(4)

【主な意見】

- ・安易な天然更新が選択されないよう研究を進めてほしい。

事前評価課題 (3 課題)

●自然栽培可能な高温発生型きのこの栽培技術の開発

評価平均点 16.00 点

【評価項目】

必要・緊急性： 緊急に必要(3)、緊急に必要ではない(1)

新規独創性： 高い(4)

目的達成の可能性： 高い(4)

期待される効果： 大いに期待できる(2)、ある程度期待できる(2)

【主な意見】

- ・サプリメントとしての効力も大いに検討してほしい。
- ・新しいきのこの栽培技術に期待する。

●再造林推進に向けた皆伐・植栽一貫作業システムに関する研究

評価平均点 15.00 点

【評価項目】

必要・緊急性： 緊急に必要(4)

新規独創性： 高い(2)、低い(2)

目的達成の可能性： 高い(4)

期待される効果： ある程度期待できる(4)

【主な意見】

- ・素材供給量の問題を十分配慮してほしい。

- ・小課題2は目標達成の可能性が高い。小課題1の有効性検証はなかなか難しいと思われるが、具体的にはどのような計画なのか。

●三重県の落葉・常緑広葉樹林におけるニホンジカによる森林生態系被害の評価手法の開発

評価平均点 14.50点

【評価項目】

- 必要・緊急性： 極めて緊急に必要(1)、緊急に必要(2)、緊急に必要ではない(1)
- 新規独創性： 高い(3)、低い(1)
- 目的達成の可能性： 高い(3)、低い(1)
- 期待される効果： 大いに期待できる(1)、ある程度期待できる(2)、あまり期待できない(1)

【主な意見】

- ・行政制度に将来構想を検討するビジョンを提案してほしい。
- ・シカ被害の評価は大切だが、この手法が三重県に適用できるのかは検討が必要。